

様式第 3 - 2 号

削減計画実施状況報告書（内容）

事業所名	国立研究開発法人国立がん研究センター 国立がん研究センター東病院		
事業所の 所在地	千葉県柏市柏の葉6-5-1		
事業所の 主たる 業種及び 事業概要	病院		
報告期間	令和	6	年度分
温室効果 ガス排出 量報告	◎基準年度 (過去に市へ削減計画書(様式第2号)を 提出した際に設定した基準年度の数値を記 載してください)	12,216	t-CO2
	◎報告年度 (報告期間におけるCO2排出量)	12,492	t-CO2
	◎対基準年削減量	(276)	t-CO2
	◎対基準年度削減率	(2)	%削減
	◎目標年度 (過去に市へ削減計画書(様式第2号)を 提出した際に設定した目標年度の数値を記 載してください)	12,198	t-CO2
温室効果 ガス削減 実施内容 (増加し ている場 合は、そ の理由と 今後の対 策も記入 する)	1. 増加理由 (1)R6年度夏季(7~9月)14時計測の平均外気温は、基準(R3)年度より3.0~4.9℃高く、外気負荷が大幅に増加した。 (2)空調設備の変更点として、通院治療センター系統空調機(3台)の運転スケジュールを平日4時間45分延長、また新型コロナウイルス感染症対策として窓開放による換気対策が実施され、空調負荷が増加した。 (3)R6年度6月以降の夏季にわたり、本館棟の主要熱源機である吸収式冷温水機(冷凍能力1758kW×2台)の2号機に、原因不明の濃液濃度異常の不具合が発生した。現象再現と確認の為、メーカーでの様々な調整及び運転調査を繰り返したが原因特定に至らず、熱源運用が不安定な中で、院内の医療環境維持を最優先とし、不具合警報発報による熱源停止防止の為、2号機に冷凍能力の制限をかける調整を実施。上記(1)の通り、外気条件の厳しさも重なる中、エネルギー消費を度外視し、当該熱源の2台同時運用を長時間実施して空調供給の安定に努めた結果、ガス消費量が増加した。 R6年度夏季:(運転)3,032時間、(ガス)173,924m³ 基準(R3)年度夏季:(運転)2,488時間、(ガス)125,021m³ (4)R6年4月より、新築であるRI治療病室棟(延床面積140.9m²)の運用が開始され、エネルギー消費量が増加した。 上記(1)~(4)の理由により、基準(R3)年度よりCO2排出量が増加した。 2. 今後の対策 (1)プロジェクト棟貫流ボイラー1台を高効率タイプに更新。 (2)陽子線棟加速器用冷却塔の更新。 (3)本館棟1F医事課の天井照明をLED化。		